

(様式 5 : 全対象事業共通)

令和 6 年度エネルギー構造高度化・転換理解促進事業評価報告書

補助事業名	再エネを活用した情報発信システム運用実証実験														
補助事業者名	むつ市														
補助事業の概要	<p>観光地経営の改善につながる新たなモデルを構築するため、観光産業の振興及び来訪需用の創出について検討しており、令和 5 年度に再生可能エネルギーを活用した情報発信媒体等の導入可能性調査を行った。</p> <p>その結果から立案したコンテンツ・システムの開発と、再生可能エネルギーを利用した最新 I o T デバイスの設置及び実証実験（前期）を行った。</p>														
総事業費	24,417,739円														
補助金充当額	24,417,739円														
事業終了時点で達成すべき成果目標【必須】 (提案書から転記)	<p>【2024年度観光客の増加】</p> <p>むつ下北地域の魅力がむつ市内及び周辺地域に浸透し、多くの滞在型観光客が訪れることを促進する。具体的には、本事業で目玉となる釜臥山展望台入込数や市内宿泊施設利用者数を増加させ、継続的にむつ市観光や周遊を促すように本事業のアプリ登録者数の増加を目指す（2023年市内宿泊施設利用者数（5～10月）の1%を目標とする）。</p> <p>(成果指標と目標)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>基準値（2023年）</th> <th>目標値（2024年）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>釜臥山展望台入込数</td> <td>21,151人</td> <td>40,000人</td> </tr> <tr> <td>市内宿泊施設利用者数</td> <td>135,862人</td> <td>145,000人</td> </tr> <tr> <td>アプリ登録者数</td> <td>-----</td> <td>1,350人 (市内宿泊施設利用者の1%) (2025年度と合わせて2%)</td> </tr> </tbody> </table>			指標名	基準値（2023年）	目標値（2024年）	釜臥山展望台入込数	21,151人	40,000人	市内宿泊施設利用者数	135,862人	145,000人	アプリ登録者数	-----	1,350人 (市内宿泊施設利用者の1%) (2025年度と合わせて2%)
指標名	基準値（2023年）	目標値（2024年）													
釜臥山展望台入込数	21,151人	40,000人													
市内宿泊施設利用者数	135,862人	145,000人													
アプリ登録者数	-----	1,350人 (市内宿泊施設利用者の1%) (2025年度と合わせて2%)													
事業終了時点で達成すべき成果目標の達成状況【必須】	<p>令和 6 年度 釜臥山展望台入込数 17,376人（未達）</p> <p>世界夜景遺産に登録されたことを、本情報発信システムを活用しPRを行い、令和 6 年度に設置した I o T デバイスとアプリの連動により入手できるデータを分析・活用し、入込数増加に向けた取り組みを行っていきたい。。</p>														

	<p>令和6年度 市内宿泊利用者数 217,360人（達成） 目標より大幅に上回った。</p> <p>令和6年度 アプリ登録者数 665人（未達） アプリ配信開始が観光オフシーズンとなっしまい、アプリ登録者数が思うように増えなかった。</p> <p>むつ市HPやLINEでの定期的な周知や、観光・宿泊・飲食施設等に設置した告知媒体（アプリダウンロード用QRコード付き）から観光客・むつ市ファン（LINE登録者等）に向けて本情報発信システム内容を告知し、アプリ登録を促す。</p>	
事業終了後、将来的に達成すべき成果目標【任意】 （提案書から転記）	/	
事業終了後、将来的に達成すべき成果目標の達成状況【任意】	/	
<p>補助事業の実施に伴い締結された売買、貸借、請負その他の契約 （※技術開発事業のみ：間接補助を行った場合は、間接補助先を記載）</p>	契約の目的	令和5年度に調査した結果を基に、再エネを活用した情報発信システムの実証実験を行うため
	契約の方法	随意契約
	契約の相手方	一般財団法人電源地域振興センター
	契約金額	24,417,739円
来年度以降の事業見通し	<p>令和5年度に行った基礎調査を基に、令和6年度ではコンテンツ・システムの開発を行った。再エネを利用した最新IoTデバイスを市内観光施設に設置し、令和6年9月より実証実験（前期）を行った。</p> <p>令和7年度は、実証実験（後期）を行い、システム利用者からの意見を聴取し、システムの改良や新たなコンテンツの作成等、市内観光DXの本格活動に向けた取組を進める。</p> <p>また、令和8年度に再エネを活用した誘導案内看板の設置に向け、設置場所の選定や案内看板の基本設計を行う。</p>	